

# 志摩市におけるゼロカーボンパークの推進と今後の展開

志摩市役所 市民生活部 環境課

## 一 はじめに

伊勢志摩国立公園区域内にある本市は、三重県の南東部に位置する人口約四万八、〇〇〇人のまちで、約一七九km<sup>2</sup>の陸地と港湾区域等を除く海岸から二kmの海域が公園区域に指定されている。伊勢志摩国立公園は、日本の国立公園の中で最も定住人口が多く、公園区域の九割以上が民有地である。豊かな自然と歴史、それらと人々の暮らしが調和している姿が特徴的で、訪れる人々が地域の織りなす生活、歴史、文化、風習に深くふれあうことができるわが国では異色の国立公園である。

また、日本の国立公園を世界に通用する「ナショナルパーク」としてブランド化することをねらいとした「国立公園満喫プロジェクト」先行



横山展望台からの英虞湾

八地域にも選ばれており、今年三月に改定された「伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム二〇二五」に基づき、関係機関が連携を図りながら、各種取り組みを推進している。本市は令和二年二月に、脱炭素社会の実現に向けて取り組み決意を「ゼロカーボンシティしま」と

して表明した。美しい志摩を未来の世代に残すため、市民や事業者と一体になって、地域の脱炭素化を目指している。

本稿では、令和三年六月に、長野県松本市の乗鞍高原に続き全国で二番目のゼロカーボンパークとして登録された本市の取り組みを紹介し、今後の方向性を述べたい。

## 二.ゼロカーボンパークに登録されるに至った志摩市の主な取り組み

### ① Bicycle Journey

二次交通の脱炭素化を図る取り組みとして平成二八年度に開始した事業で、志摩市の玄関口である近鉄鵜方駅前や賢島駅付近にレンタサイクルの貸出場所を設定し、坂道の多い志摩地域を快適に走れるよう電動アシスト自転車やクロスバイク



レンタサイクルを楽しむ観光客の様子

等の多種多様なモビリティを整備している。利用者が志摩市の豊かな自然を存分に楽しめるよう、サイクリングコースの提案、WEBサイトの設置、マップの提供などを行っているほか、ガイドや伴走車が付くプライベートツアーにも対応している。利用者は年々順調に増加しており、新たにEーバイク等の新型モビリティを導入する予定で、事業

のさらなる推進を図っていくこととしている。

②CO<sub>2</sub>の吸収源となる

藻場・干潟の再生

本市沿岸は重要海域および重要湿地とされており、観光や水産業の基盤でもある。国立公園の核心部である英虞湾には、過去に埋め立てられた干潟が遊休地化している場所が多数あるため、生物多様性の保全や海の浄化能力向上の観点から、平成二二年度より英虞湾の四カ所で干潟の再生を行った。あわせて地域住民と協働でコアモ場の再生も実施し、CO<sub>2</sub>の吸収源の増加を図った。

再生干潟では、毎年、市民参加型のモニタリング調査を実施しているほか、横山ビジターセンターが行う行事では、干潟の自然観察会を通じて環境教育を実施している。

③マイボトル等で利用できる

給水機の導入

現在、本市の脱炭素に係る取り組みの核と言えるのが、使い捨てプラスチック容器の使用抑制やプラスチックによる海洋汚染防止等を目的として、令和三年四月から実施している「マイボトル等で利用できる給水機」(以後、給水機)の導入であ



市役所本庁舎に設置された「マイボトル等で利用できる給水機」

る。これは、本市と浄水器レンタル事業者が官民連携で推進しているもので、既に市内六施設に導入した。市および浄水器レンタル事業者のHPやSNSで広報を行い、民間企業に直接足を運んで事業概要の説明を行うなど普及に努めた結果、導入して間もないにもかかわらず多くの市民が利用しており、給水機の導入を決定した企業や設置を検討する企業が現れるなど、プラスチック対策の普及啓発の効果が徐々に現れてきている。県内外の自治体からの問い合わせも相次いでおり、波及効果は全国に及んでいる。このほかにも、本市の主要な利用拠点である横山展望台でのRE

三、今後の展開

100の実施、官民連携で推進するクリーンアップ活動等で回収したペットボトルを生地や糸へ再生させるアップサイクルの取り組みなど、ゼロカーボンパークに登録されるに至った取り組みは多い。

今年六月に国が打ち出した地域脱炭素ロードマップでは、地域の脱炭素化が地域の成長戦略になり、再生可能エネルギー等の地域資源の活用が地域課題の解決や防災につながるとしている。本市において脱炭素に係る取り組みを推進することは、今後の志摩市の地方創生の実現に向けて大きな鍵になると考えている。今後、太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーの導入についても、ステークホルダーとの合意形成を慎重に図りつつ、積極的に取り組むべき重点事項ととらえている。

とはいえ、市役所がいきなり脱炭素施策の推進を掲げても、すぐに市民や事業者に身近なものと感じてもらえるわけではないので、まずは、前述の給水機の導入など比較的取り組みやすいことから始め、これを継続するとともに関連の取

り組みを進めることで、地域での脱炭素化の機運醸成やサステナブルな観光地づくりにつなげていきたい。

公園利用者に対しては、ただ単に公園を利用してもらうだけでなく、実際に自然豊かな国立公園内で起きている環境問題や脱炭素の取り組みを知ってもらい、地球環境や自然環境の変化について深く考える機会を創出することがゼロカーボンパークの責務の一つであると考えている。本市のような経済基盤の弱い小規模な自治体が、今後活性化していくことが想定される全国的な脱炭素化の潮流から取り残されないためにも、本市職員一人ひとりが常にアンテナを高く張り、これ以上以上に市民、民間企業、関係行政機関等との連携を深めながら前項で紹介したような取り組みを昇華させ、新たな事業を創出することで、地域一体となった脱炭素社会の形成に取り組んでまいりたい。

一般の本市のゼロカーボンパーク登録が、市民の「地元に対する誇り」や「志摩」の全国的な知名度向上につながり、また、「国立公園の脱炭素ドミノ」という形で全国に波及するきっかけとなれば幸甚である。